

給食だより 1月

本年もどうぞよろしくお願いいたします。1月は全国学校給食週間があります。これを機に身近な給食の役割について知り、考えてみましょう。

1月24日～30日

全国学校給食週間

全国学校給食週間は、学校給食の意義や役割などについて理解と関心を高め、より一層の充実をはかることを目的として定められました。学校給食は、栄養バランスのよい食事で成長期にある子どもたちの健やかな成長を支え、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために重要な役割を果たしています。

ぜひこの機会に、家族で給食について話題にしてみてください。

知っているかな？ 学校給食の歴史

日本の学校給食は、1889年に山形県の私立忠愛小学校において始まったとされています。この給食は、貧しくて生活に困っている子どもたちを対象に無償で出されたものでした。現在は、子どもたちの健康の増進や体格の向上を図ること、そして教材としての役割があります。

学校給食の始まり



脱脂粉乳は、牛乳の脂肪分を除き、乾燥させて粉にしたものです。現在も「スキムミルク」として販売されています。学校給食は戦争で一時中断となりましたが、太平洋戦争後、食料不足で苦しむ子どもたちのためにアメリカ力などからの脱脂粉乳などの援助物資を受けて再開することができました。

脱脂粉乳って何？



ユニセフ給食の贈呈式 (1949・昭和24年)と、当時の給食風景



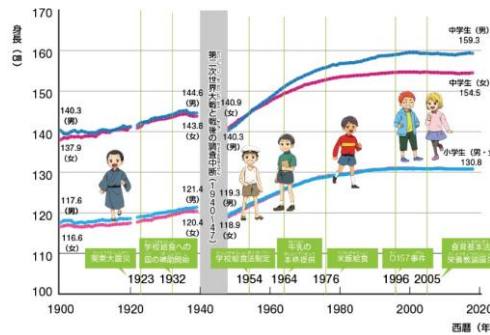
1952(昭和27)年頃の学校給食
コッペパン、ミルク(脱脂粉乳)、くしらの竜田揚げ、せんきゃべつ、ジャム

写真提供：
(独)日本スポーツ振興センター

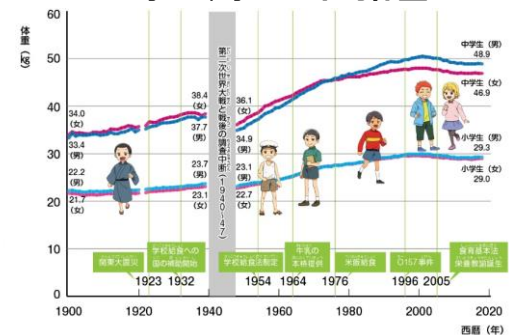
ユニセフはもともと「国際連合国際児童緊急基金」とよばれていました。戦争後、厳しい暮らしをしていた日本の子どもたちの命を守るために日本の学校給食はスタートしたのです。現在は日本のほぼすべての小中学校で行われ、およそ900万人以上の児童・生徒が学校給食を食べています。

小中学生の体格の変化

小・中学生の平均身長



小・中学生の平均体重



学校給食の献立の移り変わり

明治22年	昭和22年	昭和25年	昭和40年	昭和52年
<p>おにぎり・塩さけ・菜の漬物</p>	<p>ミルク(脱脂粉乳)・トマトシチュー</p>	<p>コッペパン・ミルク(脱脂粉乳)・ポタージュスープ・コロケ</p>	<p>ソフトめんのカレーあんかけ・牛乳・甘酢あん・果物(黄桃)・チーズ</p>	<p>カレーライス・牛乳・塩もみ・果物(バナナ)・スープ</p>

学校給食開始時と現在の体格を比較すると、身長も体重も大きく増加しました。給食は「体格の向上」のために大切な役割を担っていることが分かります。みなさんも丈夫な身体をつくるために、好き嫌いせずバランスのよい食事を心がけましょう！